

## 「出題の意図」

選抜区分	平成 31 年度 （選抜区分：一般選抜後期日程） 国際環境工学部 機械システム工学科（科目名：物理・数学）
出題の意図 （評価のポイント）	<b>※物理について、出題の意図は公開していません。</b>

## 「出題の意図」

選抜区分	平成 31 年度 （選抜区分：一般選抜後期日程） 国際環境工学部 機械システム工学科（科目名：物理・数学）
出題の意図 （評価のポイント）	<p><b>※数学について、一部記載されていない問題もございます。</b></p> <p><b>1. 出題の背景・求める能力</b></p> <p>第 3 問 複素数について理解度を確認する問題である。複素数の絶対値・偏角、及びド・モアブルの公式に関する基本的な知識や論理的な思考力を確認する問題である。</p> <p>第 4 問 選択 B ベクトルの内積・大きさ、及び三角関数で表されたベクトルの長さの最小化に関する問題である。高度な知識や発想を問う問題ではなく、基本的な知識や論理的な思考力を確認する問題である。</p> <p><b>2. 解説(解法)</b></p> <p>&lt;答案の特徴と傾向&gt;</p> <p>第 3 問 数列の初項の絶対値及び偏角を求める問 1 では多くの受験生が正答していたが、一般項の絶対値及び偏角を求める問 2 では正答が少なかった。論理的な思考力を問う問 3 も正答が少なかった。</p> <p>第 4 問 選択 B ベクトル記号による直接計算を利用した標準問題であり、全問正答した答案も多くみられた。ただし、ベクトルの成分に基づくアプローチによって計算が煩雑になり、計算間違いをしている答案も多くみられた。</p>